

# 東雅

自五  
至六

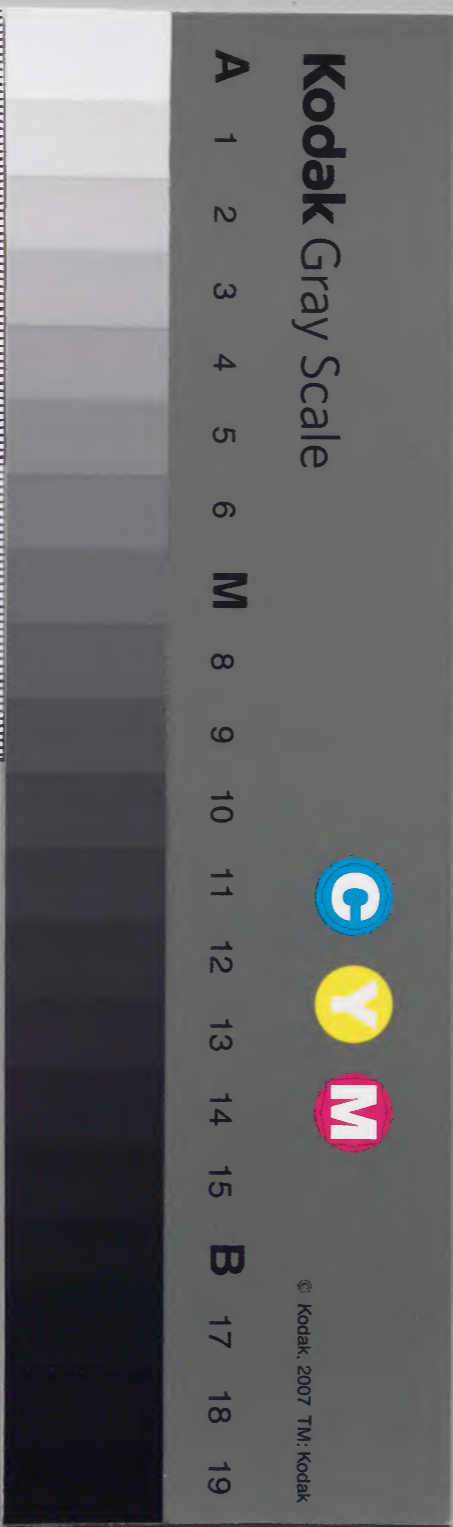
和書門

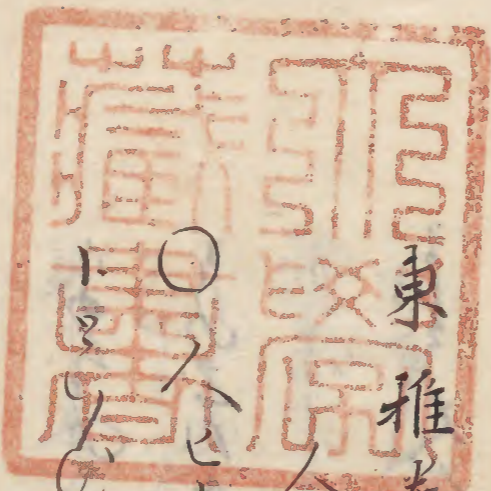
					和書門
			二六六九〇		
		一〇六	二四〇		
一〇	六	四	〇	號	類
冊	架	函			

庫文閣内				
二〇七		二六六九〇		和書
面		一〇六		
一五	冊	二四〇		
架		〇	號	類

内閣文庫		
番號	和	26690
冊數	10	( 3 )
函號	207	323

類

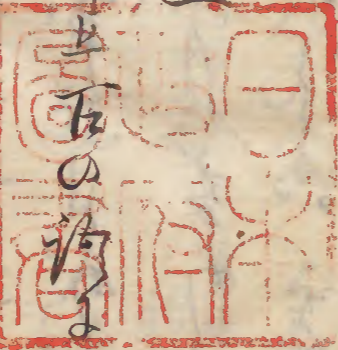




東雅卷之五

人倫第五

○人倫下義不詳也 百の初より終まで



浅草文庫

惟人の名を以てし事にも自れをい  
ゆるはまきりの神皇の徳りなりといふ  
かきしひ一事に前より終まで  
とらふはまきりにてはまきり  
たけふはまきりにてはまきり  
すこきりてはまきりにてはまきり  
り事なりとてはまきりにてはまきり

いかにしむるまじりつらひのりつらひにほれし  
河の流をくくしと古乃信高も亦し緒し  
こころいふと私記しけり世にけり事く  
四事記しはあきらけはさよふ定り信高も  
てと命いふらむいひて無了信高も  
ゆここれよりしと古事記し一列し  
あとのいふまじりこれ上あめけりこと  
よのそらもあし事ふとあしと  
赤糸ししつらしし事ありつらし  
とま大人のよき事ありし  
古事記しはあきらけはさよふ定り信高も  
てと命いふらむいひて無了信高も

古事記ふまじり信高のまじり  
代りてあきらけはさよふ定り信高も  
てと命いふらむいひて無了信高も  
ゆここれよりしと古事記し一列し  
あとのいふまじりこれ上あめけりこと  
よのそらもあし事ふとあしと  
赤糸ししつらしし事ありつらし  
とま大人のよき事ありし  
古事記しはあきらけはさよふ定り信高も  
てと命いふらむいひて無了信高も

此の申は海にしほのうまのなをまさしると可後うとしんひーるあ  
のあとりししも亦木物—はコとりり回中紀—んんん  
きんくしなんとしんひんん—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

後てうとととととしんひん—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

けりとりひしけりはメとりひしけり—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

メカとりひしけり—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

しいしきとりひしけり—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

田女—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

とりりり—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

比賣沖大戸四別沖—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

和氣とりひしけり—又男に麻呂—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

比賣沖大戸四別沖—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

和氣とりひしけり—又男に麻呂—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

比賣沖大戸四別沖—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

和氣とりひしけり—又男に麻呂—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

比賣沖大戸四別沖—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

和氣とりひしけり—又男に麻呂—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

比賣沖大戸四別沖—古事記—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

和氣とりひしけり—又男に麻呂—りりり—ししり—りりり—ししり—りりり

ワカレ 新よ  
童男をけりナシとい童 女はシトメ

シロい 一歩集こまふらふもろき

又シホコといしきり 新集物 年路一長

とけ留まはカウとい 扉留く 女事比は世まのまろ

と世土のまろ カトコと後 女はなろゆシトメといし 又タヨロト

とシい又物一てタヲヤメといし 華比古事比

集うの師女如師女のまろ 心 心をけはシチ

シい 四事比り中比あろるる物又 又シキナといし 新集

を又ホハまろ 無用い所を 心を地ははシチといし 中比後名物

シい 一歩集 又ナキメといし 新集比に通用は 心を地

とを揚名跡を日とるる童男はチクナとい童女はカトメとい  
心を地はオキナといを女はナキメといし 心を地は  
地の名とて一は新集の  
跡をシい

○父チ

○母いし世ふそ父をヤとい母をシモとい

中事比り中比あろるる子孫てチモツいし 而母の方を母を

チモツいしをカトコと後 師女のまろ 心を地は  
乃心をまよつて一又心を

心を地はまよつて一又心を 古集物 文はカゾとい母を

シい 心を地はまよつて一又心を 心を地はまよつて一

シい 又父をチといし 心を地はまよつて一



ムスリソいー 歸りてきうう長 あきユコ〜ソいせあを  
ユシメとらふ事口紀 ころん 妻ふらはユトコとて  
事定を式切よる〜 沙よき子の ときとて工  
〜ユトはカへ又 稚ふら〜カコ〜 古所松橋  
一 鼎外常に 書物をも 神職よ 悔きさ〜い  
〜キコ〜 流の 悔〜 ワカユ〜  
〜き 古の 神若クいノ 着別〜い  
〜えと〜 物〜 はワケ〜 男子の 福〜  
〜い〜 け〜いワカ〜 歸是 水〜  
凡男子の 存せ〜い〜 とき  
修よ 男子の とき  
カヤカ〜い〜

弱のまらし由也き 事あれ〜よ字又 澄〜 ム〜  
ゆいあ〜 弱〜 弱〜 の〜 け〜い〜  
〜

最也子に〜ナコ〜い 又 愛思〜

字子ら〜は〜い〜 妻〜  
〜  
〜 傳又母の 爲め〜 下〜 父子〜  
〜 後よ〜 コノコ〜  
〜 子〜  
のまは

○ 先アニ ○ 弟 ヲトツト ○ 物ア子

○妹イモウト 古修ヨミとセシシイカネはナセヤ  
リイカネはナ子トシイイロセトシイイカネ  
お祈して。うカラ。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ

セシイカネの別四母のニとシ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ  
お祈して。シ。ハ。古。こ。道。母。カ











一ノ事 下事り水記年ノ事  
 見之 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事

一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事

一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事  
 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事 一ノ事



る... 大君の御...  
... 皇太后...  
... 豊国...  
... 久所...  
... 口...  
○皇太后... ○妃...

○夫人... 左右の代...  
... 伊馬...  
... 此事...  
... 之...  
... 皇太后...  
... 皇太后...  
... 皇太后...  
... 皇太后...

夫はよみかくるはくけいしんつりけるはつら  
 此字はつるにふしむるにのみつるにふしむる  
 宇野はつるにふしむるにのみつるにふしむる  
 さいしりちてふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる  
 つるにふしむるにのみつるにふしむる

○ 皇子とツキノコ ○ 皇子

○ 王ヲオホキニオホキニオホキニオホキニ  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子  
 皇子とツキノコ ○ 皇子



事... 内親王法王...  
...

方... 又王の字を...  
...

西洲の方之... 修玉の書に...  
...

西千... 師方...  
...

たは... 西洲...  
...

新記... 出...  
...

... 事...  
...

...

○臣之上右の... 可詳...  
...

... 武... 佐...  
...

...

命の切ら... 改めて...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

事よ 印傳 印字の事も詳く又 才十代の事も詳く  
津よりなる一り一傳して 伝まの事 印字の一物なり  
川を越上の伝は 伝まの事 大業系の一の事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事

○ 一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事  
一を伝は 伝まの事 伝まの事 伝まの事





集の哥より多々下す事にて是も後くうり申紀より別系  
 乃多後してより下すりいハ下すりいハ下すりい  
 夢は惜しくも別系のもよむもよし  
 かなひもよし君之を色もよし  
 乃きりよのせより移し  
 りかこれをよし是の終めを  
 しの代より官名あり  
 此のの神より立事場の  
 撰也  
あひらけ  
 物なりとも  
 一の御守のくろも

いれは代より御守の  
 千と中事の始  
いれは代より御守の  
 千と中事の始  
 此のの神より立事場の  
 撰也

麻治命乃後々をみ  
 世お継ぎを中  
 事紀より  
此のの神より立事場の  
 撰也

...  
事の...  
...  
...

○大後斗未二十年...  
二月...  
山改...  
...  
...

...  
...  
仲...  
...  
...



乃て此事前より之を月事乃て...に

天皇二十二年八月大新行帝...  
麻治命  
七世の孫

天皇二十二年八月大新行帝賜物於連公時即改古位

号大連...新詔之天連の号始御世所...事紀

天皇二十二年...  
千石

弟も又之より...母...  
千石

大御名号稱軍位...大連千石...連也

聖名日御世...  
千石

○宿禰 スツ子 四事紀より御神武より麻志

麻治命の御孫...  
スツ子

此宿禰月岡号...  
スツ子

天皇二十二年八月...  
麻治命

次乃宿禰子...  
麻治命

八年三月以大係麻禰命...  
麻治命

天皇八年三月...  
大尾代

大尾...始...  
大尾代

三月把部...  
大尾代

大宿禰の宿禰...  
大尾代

人...  
大尾代



……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……

華元ト云ハ一はのまるといふ  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 是レハ一はのまるといふ  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 所ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事

○伴造トモノ云ハツテ  
 畢レテハ此ノ事ヲ  
 後連ノ  
 事ヲ畢ル中ニシテ  
 此ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事

伴造ト云ハツテ  
 畢レテハ此ノ事ヲ  
 後連ノ  
 事ヲ畢ル中ニシテ  
 此ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事  
 宿禰ノ事ヲ知ル所ノ事

即ち治代の武官の長の職掌をあらわし

○四道リテヤツコ 筆記ニテ武ニ至ニ年

二月定ヨリ賞ヨリ行推根は長帝ヲ始キテ

知ルヨリ年始キテ大儀也音也小凡行内四

山也小何也也音の四道ニ至リテ年始キテ

折也ニ至リテ年始キテ志貴弟 破也ニ至リテ

年始キテ年始キテ年始キテ年始キテ

年始キテ年始キテ年始キテ年始キテ

年始キテ年始キテ年始キテ年始キテ

官長中ニテ即ち治代の小守形依の職掌の事

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

事始キテ事始キテ事始キテ事始キテ

昭... (Faint vertical text)

○士サフラに我周... (Main text on the right page, starting with a circled character)

○氏ヲ... (Main text on the left page, starting with a circled character)

故曰天下民為華人系一之者之謂也  
少者多有道速振荒振玉沖は名振本海系  
以業粉能唐行今之事也  
昔人なるはと一のこしりか  
四ノ海て子とら民をうのて  
之ノ一ト一ト人系とら  
リト一ト一トのこしりか  
おらと一ト一トのこしりか  
らら一ト一トのこしりか  
らら一ト一トのこしりか  
リリ一ト一トのこしりか  
ルル一ト一トのこしりか

と云ふ事  
也君より  
也君より  
也君より

一に田を  
田を  
其の  
以て  
昔を  
百  
此

○ニツタミ、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事、ツツミと付置りたる後の事

とてに主事終りしと書し、事のそとに終り

以伸天監屋戸よりなり、つらつら行年帳通御注

去後知神八天に居、造雜念、後代大漢、僕の

村而造陽殿、神部天皇、大佛、小持、系、之、造、也

一、付、彼、二、部、の、係、に、成、り、海、之、川、子、高、源、亦、亦

此、何、國、の、本、籍、也、二、部、子、孫、林、之、部、可、居、清、也、

亦、造、教、之、部、不、居、謂、之、系、音、也、之、部、七事比七所  
拾遺云

と、形、之、好、よ、相、を、し、り、の、中、道、と、い、ひ、の、事、也、

子、孫、新、屋、台、所、と、い、ひ、の、事、也、と、い、ひ、の、事、也、

と、い、ひ、の、事、也、と、い、ひ、の、事、也、と、い、ひ、の、事、也、

舊と交代と... 中入道は初科通を定  
し... 子孫の世に傳  
まらざる... 渡土賣海工業の二神と母を同一く  
とす... 伊勢津神の  
津神... 伊勢津神の十把針  
小洞... 伊勢津神の十把針  
古の附... 伊勢津神の十把針  
之... 伊勢津神の十把針  
伊勢津神の十把針

一... 古事記... 伊  
初許... 伊勢津神の十把針  
倭名... 伊勢津神の十把針  
... 伊勢津神の十把針  
上世... 伊勢津神の十把針  
... 伊勢津神の十把針  
... 伊勢津神の十把針  
... 伊勢津神の十把針

又大己貴津根八由津<sup>ニ</sup>行<sup>キ</sup>て天<sup>ノ</sup>半<sup>ノ</sup>民<sup>ノ</sup>良<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

他<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>も<sup>も</sup>一<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 陶<sup>ノ</sup>甄<sup>ノ</sup>土<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>天<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>世<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>に<sup>テ</sup>居<sup>ル</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也

ら<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>津<sup>ノ</sup>武<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>半<sup>ノ</sup>第<sup>ノ</sup>作<sup>ル</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

去<sup>リ</sup>多<sup>ク</sup>心<sup>ヲ</sup>社<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>ら<sup>シ</sup>形<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 大<sup>ノ</sup>形<sup>ノ</sup>尾<sup>ノ</sup>半<sup>ノ</sup>故<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

造<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>而<sup>シ</sup>多<sup>ク</sup>天<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>比<sup>ノ</sup>池<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也

物<sup>ノ</sup>於<sup>テ</sup>八<sup>ノ</sup>十<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>前<sup>ノ</sup>作<sup>ル</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 物<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

因<sup>リ</sup>是<sup>レ</sup>より<sup>ハ</sup>陶<sup>ノ</sup>土<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 物<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

又<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 大<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>根<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

茅<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>始<sup>ノ</sup>陶<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 物<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>

い<sup>ハ</sup>ま<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup> 此<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>也 書<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>也<sup>ト</sup>





カニキミミサの浦にまゝのこゝに命乃後  
様女君のしほごれりて天竺石戸より  
一ヶ月の事外高様首の世帯より  
しほり行葉のよきあはれはのよき  
巧作サラサ俳優して歌舞をみよ  
虫女の浦を案してしほりて又虫女の  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
仲妻天皇は徳義をたもててしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて

しほりてしほりてしほりてしほりて  
業うま始まるの御もて古事記には  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて

○高しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて  
しほりてしほりてしほりてしほりて

地... 俗稱... の... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

は事のきこむかへに河津天も整んたへしと

○<sup>ニサツ</sup>河津新遠祖天おあり夫者山と高

木の枝と後玉 <sup>ニトラ</sup>和帯とへらあて 持お七 彦原稿

子キ下ホリノ事なり <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

後玉新福津 <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

後玉新福津 <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

後玉新福津 <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

後玉新福津 <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

後玉新福津 <sup>カニコミホカリ</sup> 後玉新福津

○整リスニ我因ニ條病禁殿と皇はち色貴少云

若ニ神の始りノ事四事口お記すの事よんてと

方法のくはれまじせりいひつた事の一はま

富をよおし一所らとて大盛りなはる事やあ

よのら又ニ韓りり醫士醫方の事代よと

よのら又ニ韓りり醫士醫方の事代よと

よのら又ニ韓りり醫士醫方の事代よと

よのら又ニ韓りり醫士醫方の事代よと

○トウラ一天津陰陽二神を天降されし

フトニ

ち古... 世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...  
世事... 戸... 少... 取... 了... 乃... 以... 皇...

... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...  
... 事... 義... 一... 臣... 年... 所... 一... 事...

しつとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

事しとせしむるに漢より千餘年

日中紀は傷の字を讀むにカセと云ふは此士の

もより傷の字を讀むにカセと云ふは此士の

は仰の字のまより傷の字を讀むにカセと云ふは

我がの二世に傷の字を讀むにカセと云ふは

らに傷の字を讀むにカセと云ふは

此の字のまより傷の字を讀むにカセと云ふは

か

已上人品



大宮の邸ありし一向に跡をたどるは事なきにあらざる  
 万葉集の序に我はあはれむとて事なきにあらざる  
 抄に云ふはたゞに追ひて事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる  
 万葉集の序に我はあはれむとて事なきにあらざる  
 抄に云ふはたゞに追ひて事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる

○石下ノ義あり洋新田に下柳に教へて事なきにあらざる  
 石下ノ義あり洋新田に下柳に教へて事なきにあらざる  
 石下ノ義あり洋新田に下柳に教へて事なきにあらざる

<sup>四事</sup>上より河東居えたるは宮室ありて大  
 戸より神の所ありて事なきにあらざる  
 又彼の歌傍に系文道に於て天を神の孫大富命  
 千置机負え杖を神の孫を率いて事なきにあらざる  
 少きるの中にも事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる  
 神代卷に云ふは事なきにあらざる







わねのあもあも半百集の字ナカ判ナ村作六八作と海

ゆき横ついで純るついで雪のほいで千本と雪

のねるあゆむまき修すカラスオト形まき

天のゆかへ運舟まきのりまき

華あふまき海まき横まき

雪まき一まき海まき横まき

とほまき一まき海まき横まき

しはまき一まき海まき横まき

氷物まき一まき海まき横まき

雪あふまき一まき海まき横まき

一まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき

事まき一まき海まき横まき







口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口

口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口

口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口  
 口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口

口也紀尔年研平命后兵大宰中少師して土府  
 執印し又後してヨトノ事の... 後代少師口

所へ又例へて後て二ツリコトトウといふ事なり  
二ツリコトトコロは 官例のあらうへ一海者小古者  
治官處留之職事治治者直四社加戸位  
之をくはふ官位使廳よりより一即是く  
又修小  
政例と  
之トして二ツリコトトウといふ  
もふりら廳へ留り

(一)倉クラ古修ふクラといひ一置<sup>クラ</sup>とあく  
修ふも位と  
修の二記もクラといふ所也倉庫を凡たといふ  
修の修く所を修<sup>クラ</sup>といふ今義修は穀物  
修田修といふ下に修名物と倉庫の二字よに

藏穀物之修てヨナクラといふイナクラといふ  
唐々の説軍志在庫皆造棚周安置といふ  
庫の字修ていふモノクラといひ棚周の字とツチと修  
られ唐の甲庫といひ一西のよの釋名小庫舎  
言物而といふことと一唐に修史子集乃也  
庫のあはる庫の字はモノクラといふ修(子集)も  
又修ヤクラと修いふ  
又修とふと修と修  
一謂くはる事古事字の書に並ふ修の字用  
ひく修て夕中といふ古事記並ふりひ記ふは  
修



○尉クリヤ倭名物小流久と川く庵御くりやと倭  
 小流スホキリノリとら全昂里色にヤル所この烟火  
 乃小スホ宮早馬を屋をまかくりよの漢ナ黒実  
 形よりいも宛胡尔ゴりるに仰る倭名物小田声  
 字苑又字集畧字を引く電をカテ炊爨處あり  
 憲をクド電後穿くし仰るに而申記小を素高鳥神  
 丹洲子大年神の子息ツギ傳云奥津形此二洲を伝へ  
 為河電神名くしと一を五段又名と葬まは紀伊玉富正  
 とを傳てカ言ていふをみしは電とよひてカテ  
 小事と上世と一ツいつて一ツ分るにまはれ申すの

御はトヨハツと陰にきれ電とトウてハツとらひ  
 一と仰るト一も代々の所をくうん坊の信電の  
 字傳てカトトウとウとらと電取と傳へと申す  
 句に口は此記小脚伝と引て加摩申すと梵  
 流之漢留電抄りて陰梵流れ交ありとて  
 つけしはと典小流とて梵譯とてとに世知り尺  
 名はつじとらひカテトとらひツトとらくは尺高の津チ傳  
 ヤキとらひつとらひツとらひツとらひの所の信名同今ハ  
 大の申す所迄実多と大ユナカ燒連冒し又矣流産ともハ  
 引くは此世傳しををカ子とらひとらひも傳傳をそめゆるとい  
 んんを名の形視とカメととい凱とといカといい傳とてヨとてとらひ





長中んては之より方の道へ倭名物おね遣の字ツ  
いふもいふは不立子も遣ひしとて之に底は懸  
根よりいふの底はく

○棟の子義集集物おまゝとてまゝあるとて之を  
あまを根よりいふとて之を果実とていふ可  
まにかくりいふとて之を倭名とていふ可  
きにかくりいふとて之を倭名とていふ可

○梁の字後をうつりいふとて之を梁とていふ可  
門の字後をうつりいふとて之を門とていふ可  
極の字後をうつりいふとて之を極とていふ可

○極の字後をうつりいふとて之を極とていふ可

一 名を極といふとて之を極とていふ可  
タリとて之を極とていふ可  
極の字後をうつりいふとて之を極とていふ可  
極の字後をうつりいふとて之を極とていふ可

○ 萱薙エツリエツリは名を萱とていふ可  
つので萱薙の字を偏に事名とていふ可  
とて極といふとて之を極とていふ可  
あまを根よりいふとて之を果実とていふ可  
ゆゑの字の極をいふとて之を極とていふ可  
あまを根よりいふとて之を果実とていふ可

年くうんひーく即世

○燈ノ義 神徳名物ノ燈ハ高麗ノ燈ノ義ニ  
一キリカト心印を添く満はるの謂ふ燈ノ口は  
燭ノ一は高麗神物ノ一とほりて梁ありとほり  
くしとほり一高麗のいさく又燈名物小徳神  
といふ謂燈中標帶ノ一海より三ツタノ功程或小  
間度と<sup>ニツタ</sup>いふは<sup>燈中標帶</sup>いふは燈ノ一ともう  
西条伊ノ燈名物ノ一 <sup>一ともう</sup> 燈ノ一ともう  
又<sup>西条伊ノ燈名物</sup>一ともう 燈ノ一ともう  
禰窓 禰窓ノ燈ノ一ともう 燈ノ一ともう  
の伝ハノ孔敷と<sup>一ともう</sup>いふは<sup>一ともう</sup>いふは

形を子に添へて<sup>一ともう</sup>意と<sup>一ともう</sup>いふは<sup>一ともう</sup>いふは

<sup>多眼窓</sup>ノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

時ノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

ノの飯殿と<sup>一ともう</sup>いふは<sup>一ともう</sup>いふは

古事記ノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

飯殿ノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

の廻りノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

此ノ一ともう 燈ノ一ともう 燈ノ一ともう

シケヒカリ  
取ノ且別將して能成お存多しけり事々々之系れ

これまぬお能成の事なりし事々々之系れアカリノキ池小一

晴ノと云ふ事さきお能成の事なりし事々々之系れ

アヒトフアカリノキヤアヒトフの事なりし事々々之系れ

よのまの能成サキアヒトフの事なりし事々々之系れ

アヒトフアカリノキヤアヒトフの事なりし事々々之系れ

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅

おれおれはくは代小梅おれはくは代小梅おれはくは代小梅



カキビノカキとありて 樓はふりては一は流のきき  
一丈長とありてふりて 樓とて 山上打込とては又さき  
こけの事お握りて流のききも後て流の子に  
カキの流とてふりては 流とて 流のきき  
りては 一丈の長とては 流のきき  
流の子は名おふ新名を川とて 流のきき  
既新とて流とては 流のきき  
柳を流とては 流のきき  
こけの事お握りて流のきき  
こけの事お握りて流のきき  
こけの事お握りて流のきき

カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき

カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき  
カコフふりては 流のきき

○川口小石洋橋名柳とて 門は  
門は 門は 門は  
門は 門は 門は  
門は 門は 門は  
門は 門は 門は  
門は 門は 門は  
門は 門は 門は



物々川の... 河と橋と... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...

新... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...

... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...  
 ... 橋の... 川の... 物々の...



しんじつ 業平の子 活てヒラテをソい折のみ活て  
ヒラタ子もソいソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

活て活てトノカキとソい折の活てトノカキとソい折の

と流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
とけりこゝろのこゝろと流るるをみるに  
流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
形かく形かくと流るるをみるに  
流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
乃起るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
りやくと流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
我國凡石の流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
とのも流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに

一河の方さうと流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
乃起るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
りやくと流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
我國凡石の流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに  
とのも流るるをみるに流れてこゝろこゝろと流るるをみるに

徳島小倉敷と川と様と親履撫又法之世り小クツ  
カクもろくはほくしもの小く十意の大門宮園と足一小クツ  
カクの別をほくしもの時後よもあす師の乃海息乃敷  
かまのよもあす師の乃海息乃敷  
ひくち

師造他男小足下様楚儀てじつよりい橋儀て  
クシヤリふらんりのあふ儀

さよふ今案林とふそくとほ一あう様楚儀とい延る部亦い様車  
りあ井やふふと様林の細歩さふ小似るう廿ホノニまより  
合まきしふ何とくしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
とふ部を儀儀とくしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
清てクシとくう切程或有様林様橋とほくしとく人古儀も物の細歩さふとりふスト

このよのいししとふにさういよのまを同きしては様林と  
ゆてをを著つて村々まの儀小此上のまといふまといふ  
あつて即してあを著くとつしと印あつていてあのまといふ  
クシと儀とくしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
別もあつては親親集抄とて儀小此上のまといふまといふ  
とくしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
ア一あつていしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
この事小いしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
儀ゆいてくしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
あつて儀のまの儀小いしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
所あつて事のまの儀小いしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト  
松イウらふまはは是儀のぬく夕、まらうの年  
あつて儀のまの儀小いしとよとく人古儀も物の細歩さふとりふスト

細竹より新しき魚鱗小何とよそへ

し事まほふとも昂りて高きなりし茶くこけらふきり  
きよのま抄添しこけらふきのあふま

己上宮室

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

